秋田青少年・障害者問題調査研究所
令和6年度第二委員会青少年部会研究報告書

若者の生きづらさとその克服に関する研究 —秋田県内の青少年へのアンケート調査を通して—

令和7年3月
社会福祉法人 秋田福祉協会
秋田青少年・障害者問題調査研究所

はじめに

秋田青少年・障害者問題調査研究所

所長 瀬田川 榮一

「報告書の活用を」

青少年問題調査研究所の第二部会「青少年部会」の結果がまとまり、今回報告書を発行することになりました。

令和3年12月にスタートした研究所でありましたが、原委員長はじめ委員の方々の努力により、多少遅くなりましたが発行に至りました。委員の方々に心から御礼を申し上げます。委員の先生方はまだ若く、仕事をしながらの調査研究となり大変だったことと思います。考察を含む報告書を発行するにあたって、是非多くの方々に読んでいただきたいと思っております。

「その国の青年を見ればその国の将来がわかる」とよく言われたものであります。私自身も若い頃の青年運動の中で育てられた一人として今があると思っております。

最近では、青少年を育成する環境が以前より薄くなっているように思うのは私だけでしょうか。以前は県行政にも青少年課があり、市町村の教育委員会の“青少年係”から直接指導いただいたものでした。

今回の調査は調査時点と多少時間差がありますが、多くのデータは今の青少年の“思い”に違いはありません。

もし可能であれば、私の願いは、行政や大人が若い人にもう少し目を向けていければと思っております。青少年が社会の中でその役割が果たせるよう、そして次の世代の中心になるための大事なステップと思い育て上げていければと、この研究報告書はそのための一助になれば幸いです。

最後にこの活動に資金的にご支援いただいた企業の皆様とご指導いただいた日本青年館、教育委員会関係者の皆様に心から御礼を申し上げます。

秋田青少年・障害者問題調査研究所

第二委員会青少年部会委員長 原 義彦

「生きづらさの克服を願って」

この報告書は、秋田県における青少年を中心とした若年世代が、どのような意識を持ち学校、職場、地域において日常の生活を過ごしているかの実態を、若年世代を対象とした調査を通じて明らかにしたもので、これからの若者世代が充実した生き方ができるような支援の手がかりを得ることを目的としたものです。

本調査の意義には、主に次の3点があると考えています。第一は、調査の対象を主として高等学校段階から40歳未満までと、若年世代の年齢を幅広く捉えていることがあります。若年世代には明確な年齢範囲の規定はなく、また、人の寿命が延伸する昨今においては、若年世代の範囲は拡大することになります。本調査は、このような若年世代について秋田県内の現状の把握を試みたものになります。第二に、若年世代の生活意識や関心・ニーズの多様化などにより、個人志向の考え方や行動が尊重され、かつ、そのような生き方が可能であるはずの現代社会にあって、当の若年世代が生きにくさや生きづらさを抱えていることの問題が指摘されています。本報告書では、若年世代の苦悩する現状をその意識調査を通じて明らかにしています。第三の意義は、過去の失敗経験と現在の自己実現の分析から、生きづらさを克服するための手がかりを提案していることです。生きづらさには、過去の失敗経験に起因するものが多くあります。過去の失敗は事実としては変わりませんが、その意味づけは今の生き方によって変わることを明らかにしています。このことは、今を生きる若年世代のこれからの生き方にとって、大きなインパクトを持つ内容であると考えています。

皆様には本報告書をご高覧いただき、忌憚のないご意見を頂ければと思います。また、これからの若年世代の生き方支援の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、本調査の実施にあたっては、多数の若年世代の皆様にご回答をいただくことができました。また、調査回答へ依頼については、秋田県教育委員会、県内の高等学校、大学、短期大学、および関係する機関・団体、個人の皆様にご協力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

目次

1章 調査の概要	1
2章 高校生の生活意識と活動	
1節 高校生の全般的な特徴	2
2節 自己実現と生きづらさとの実態	6
3節 生きづらさの要因、自己実現を阻む要因	9
3章 社会人の生活意識と活動	
1節 社会人の全般的な特徴	15
2節 自己実現と生きづらさとの実態	20
3節 生きづらさの要因、自己実現を阻む要因	23
4章 考察 生きづらさの克服を支援するために	
1節 失敗体験の転化～「生きづらさ」に追い詰められる若者を生み出さない～	30
2節 自己実現できていると感じている人の特徴から見えるもの	31

1章 調査の概要

(1) 目的

本調査は、秋田県内の青少年を中心とした若年世代がどのような意識を持ちながら学校、職場、地域等において日常生活を過ごしているかを明らかにするものである。また、特にその中で、どのような生きづらさや葛藤を抱いているかを明らかにし、これからの若年世代の支援のあり方を考えるための基礎資料を得ることを目的とする。

(2) 調査と回答状況

調査と回答状況は表1-1のとおりである。

表1-1 調査概要と回答状況

調査対象	秋田県内の青少年（主に高校段階から40歳未満）
調査依頼及び回答方法	高等学校、大学、企業、団体等に協力を依頼。ウェブサイトからの回答。
調査期間	2023年7月10日～9月10日
回答状況	2,549名（高校生2,351名、社会人198名）
主な質問内容	理想とする自分らしさ これまでの成功体験と失敗体験、自信、耐性、積極性 家庭、学校、職場、地域における生きづらさ 地域や社会で協働する場や経験 親の養育態度 日頃の価値観、日常の意識と行動 等

(3) 回答者の状況

表1-2は性別にみた本調査の回答者の状況である。高校生では、男性が56.3%、女性が42.7%で、男性の方が10ポイント以上多くなっている。また、社会人の回答者では、男性が59.1%、女性が37.9%で、こちらも男性の比率が高くなっている。

表1-2 回答者の性別

(人数：人、比率：%)

		男性	女性	その他	計
高校生	人数	1,324	1,003	24	2,351
	比率	56.3	42.7%	1.0	100.0
社会人	人数	117	75	6	198
	比率	59.1	37.9	3.0	100.0

回答者の年齢（表1-3）は、高校生は「17歳以下」が88.6%で最も多く、「18～19歳」が11.3%であり、「17歳以下」と「18～19歳」でほとんどを占めている。社会人では、「18～19歳」が48.0%で最も多く、次に「20～24歳」が20.2%、「30～39歳」が19.1%と続いている。本調査の回答者では、18歳から24歳までが全体の2/3を占めている。

表1-3 回答者の年齢 (人数：人、比率：%)

		17歳以下	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～39歳	計
高校生	人数	2,071	276	3	0	1	2,351
	比率	88.6	11.3	0.1	0	0.0%	100.0
社会人	人数	13	95	40	12	38	198
	比率	6.6	48.0	20.2%	6.1	19.1	100.0

以下、第2章では高校生の回答結果、第3章では社会人の回答の結果を示す。

2章 高校生の生活意識と活動

1節 高校生の全般的な特徴

現在の高校生は、日頃、どのような意識を抱き、自身の行動や周囲との関係をどのように評価しているのだろうか。表2-1-1は、表に示した12項目のそれぞれについて、「あてはまる」と回答した人の結果を示したものである。

これをみると「あてはまること」として取り上げた項目の中で最も多いのは「友人や仲間との活動が楽しい」（79.1%）である。次に多いのは「叶えたい夢がある」（64.1%）、「悩みがあったら相談できる人がいる」（62.3%）である。一方で、「あてはまる」とする回答が少なかった項目には、「夢がかなっていない」（5.5%）、「地域でやりたいことができている」（9.3%）がある。

これを性別でみると、男性が女性より7ポイント以上の多い項目には、「自分には存在価値があると思う」（男性40.7%、女性30.1%）、「自分は役に立っていると思う」（男性31.4%、女性21.7%）、「自分はあまり他人の評価を気にしない」（男性32.0%、女性23.0%）、「今の生活に満足している」（男性44.3%、女性36.7%）がある。一方、女性の方が男性より7ポイント以上多い項目には、「悩みがあったら相談できる人がいる」（男性56.2%、女性71.2%）、「家族でやりたいことができている」（男性29.8%、女性38.5%）がある。

表2-1-1 日頃の高校生の意識、夢、やりたいこと、周囲との関係等についての自己評価

(人数：人、比率：%)

		男性	女性	その他	計
叶えたい夢がある	人数	809	681	16	1506
	比率	61.1	67.9	66.7	64.1
夢がかなっている	人数	69	60	1	130
	比率	5.2	6.0	4.2	5.5
今の生活に満足している	人数	586	368	4	958
	比率	44.3	36.7	16.7	40.8
学校・職場でやりたいことができている	人数	441	326	4	771
	比率	33.3	32.5	16.7	32.8
家族でやりたいことができている	人数	395	386	4	785
	比率	29.8	38.5	16.7	33.4
地域でやりたいことができている	人数	138	76	4	218
	比率	10.4	7.6	16.7	9.3
自分には存在価値があると思う	人数	539	302	4	845
	比率	40.7	30.1	16.7	35.9
自分は役に立っていると思う	人数	416	218	3	637
	比率	31.4	21.7	12.5	27.1
友人や仲間との活動が楽しい	人数	1039	812	9	1860
	比率	78.5	81.0	37.5	79.1
悩みがあったら相談できる人がいる	人数	744	714	7	1465
	比率	56.2	71.2	29.2	62.3
自分はあまり他人の評価を気にしない	人数	424	231	8	663
	比率	32.0	23.0	33.3	28.2

表2-1-2は、「困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ」についての回答結果である。全体で見ると、「困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ」とするのが77.2%である。性別で見ると、男性が79.5%、女性が74.8%であり、男性の方が若干高い比率となっている。

表2-1-2 困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	1,052	265	7	1,324
	比率	79.5	20.0%	0.5%	100.0
女性	人数	750	247	6	1,003
	比率	74.8	24.6%	0.6%	100.0
その他	人数	12	11	1	24
	比率	50.0	45.8	4.2	100.0
全体	人数	1,814	523	14	2,351
	比率	77.2	22.3	0.6	100.0

表2-1-3は、「学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ」に対する回答結果である。全体では、「学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ」と考えているのは34.3%である。また、性別で見ると、男性が39.8%、女性が26.9%であり、男性の方が13ポイント近く高い比率となっている。

表2-1-3 学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	527	789	8	1,324
	比率	39.8	59.6%	0.6%	100.0
女性	人数	270	722	11	1,003
	比率	26.9	72.0%	1.1%	100.0
その他	人数	9	15	0	24
	比率	37.5	62.5	0	100.0
全体	人数	806	1,526	19	2,351
	比率	34.3	64.9	0.8	100.0

表2-1-4は、高校生が「この1年間のうちで、やってみてよかったと思うことがある」ことについての結果である。全体では、89.6%がやってみてよかったと思うことがあるという結果である。これについては、性別の違いは見られない。

表2-1-4 この一年間のうちで、やってみてよかったと思うことがある

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	1,204	117	3	1,324
	比率	90.9	8.9	0.1	100.0
女性	人数	885	115	3	1,003
	比率	88.2	11.5	0.3	100.0
その他	人数	18	6	0	24
	比率	75.0	25.0	0.0	100.0
全体	人数	2,107	238	6	2,351
	比率	89.6	10.1	0.3	100.0

表2-1-5は、「今、新たに取り組んでみたいことがある」とする回答結果である。全体では、68.4%の高校生が新たに取り組んでみたいことがあると考えている。この比率は、性別で見ると、男性では70.5%、女性では65.6%となっている。

表2-1-5 今、新たに取り組んでみたいことがある

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	933	381	10	1,324
	比率	70.5	28.8	0.8	100.0
女性	人数	658	337	8	1,003
	比率	65.6	33.6	0.8	100.0
その他	人数	18	6	0	24
	比率	75.0	25.0	0.0	100.0
全体	人数	1,609	724	18	2,351
	比率	68.4	30.8	0.8	100.0

表2-1-6は、自分の夢を話せる相手として回答された結果を示している。全体でみたとき、自分の夢を話せる相手として最も比率の高いのは「友達に言える」が66.7%である。これに次いで、「家族に言える」が64.7%である。「知らない人にも言える」は20.8%、「誰にも言えない」は7.0%となっている。

表2-1-6 自分の夢を話せる相手

(人数：人、比率：%)

自分の夢を話せる相手		男性	女性	その他	計
家族に言える	人数	801	707	12	1520
	比率	60.5%	70.5	50.0	64.7
友達に言える	人数	853	707	9	1569
	比率	64.4%	70.5	37.5	66.7
知らない人にも言える	人数	268	218	3	489
	比率	20.2	21.7	12.5	20.8
誰にも言えない	人数	92	65	7	164
	比率	7.0	6.5	29.2	7.0
やりたいことや夢はまだ無い	人数	322	162	6	490
	比率	24.3	16.2	25.0	20.8

2節 自己実現と生きづらさと実態

表2-2-1は、仕事を通じた自己実現の状況を示したものである。自己実現できているとする回答は全体では20.8%（男性21.6%、女性19.7%）である。これは、「仕事を通じて」と限定したことから、アルバイトや社会体験の有無などが回答に影響があったと考えられる。性別ではあまり違いは見られなかった。

表2-2-1 仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて自己実現ができているか

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
男性	人数	286	107	383	548	1,324
	比率	21.6	8.1	28.9	41.4	100.0
女性	人数	198	69	215	521	1,003
	比率	19.7	6.9	21.7	51.9	100.0
その他	人数	5	3	9	7	24
	比率	20.8	12.5	37.5	29.2	100.0
全体	人数	489	179	607	1,076	2,351
	比率	20.8	7.6	25.8	45.8	100.0

表2-2-2は、これまでの失敗経験や挫折経験の有無を示している。失敗経験や挫折の経験があると回答した人が79.6%であり、8割近くの高校生が何らかの失敗体験や挫折体験を認識している。性別による違いは認められなかった（男性79.5%、女性79.9%）。

表2-2-2 これまでに失敗や挫折した経験があるか (人数：人、比率：%)

性別		ある	ない	無記入	計
男性	人数	1,053	257	14	1,324
	比率	79.5	19.5	1.0	100.0
女性	人数	802	186	15	1,003
	比率	79.9	18.6	1.5	100.0
その他	人数	16	7	1	24
	比率	66.7	29.1	4.2	100.0
全体	人数	1,871	450	30	2,351
	比率	79.6	19.1	11.3	100.0

表2-2-3は、これまでの失敗経験や挫折した経験が今となっては良い経験だと思うかについて、全体の性別で見た結果を示したものである。失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だったとする人は57.3%であった。6割近くの高校生が、失敗や挫折体験を何らかの形で昇華し、自らの経験としてプラスに捉えていることが窺えた。性別で見ると、男性は59.2%、女性は55.2%で、男性の比率が若干多い。一方、「いいえ」と回答した人の割合は男性10.3%、女性8.9%と女性の方が若干低い。

表2-2-3 これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	どちらとも言えない	無記入	計
男性	人数	784	136	296	108	1,324
	比率	59.2	10.3	22.4	8.1	100.0
女性	人数	554	89	269	91	1,003
	比率	55.2	8.9	26.8	9.1	100.0
その他	人数	10	4	8	2	24
	比率	41.7	16.7	33.3	8.3	100.0
全体	人数	1,348	229	573	201	2,351
	比率	57.3	9.7	24.4	8.6	100.0

表2-2-4は、親の関わり方と「これまでの失敗経験や挫折した経験は、今となっては良い経験だと思う」ことの関わりを示したものである。「親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた」「親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた」「親は何かする時、常に手伝ってくれた」では、「失敗や挫折が、今となっては良い経験だと思う」とする比率は、それぞれ60.0%、60.5%、60.4%である。「親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった」では58.1%で、「勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた」では55.7%で最も低い。

表2-2-4 親の関わり方と「失敗や挫折が、今となっては良い経験だと思う」ことの関わり
(人数：人、比率：%)

親の関わり方		これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う				
		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた	人数	1015	144	392	140	1691
	比率	60.0	8.5	23.2	8.3	100.0
親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた	人数	720	104	258	108	1190
	比率	60.5	8.7	21.7	9.1	100.0
勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた	人数	170	49	67	19	305
	比率	55.7	16.1	22.0	6.2	100.0
親は何かする時、常に手伝ってくれた	人数	796	114	285	122	1317
	比率	60.4	1.1	21.6	9.3	100.0
親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった	人数	313	71	108	47	539
	比率	58.1	13.2	20.0	8.7	100.0

3節 生きづらさの要因、自己実現を阻む要因

本節では、仕事（アルバイト、パートを含む）を通じて自己実現ができているかどうか、どのような項目が関係しているかについての結果を明らかにする。

表2-3-1は、学校での経験と自己実現ができているかどうかの関係を示したものである。学校での経験のちがいでみると、「生徒会執行部の役職についてことがある（生徒会長、書記など）」人では、自己実現ができている比率は24.4%、「学級委員になったことがある」では24.3%であり、ほぼ同率で全体の中では高い。「部活でキャプテン、副キャプテンなどの役職についてことがある」と「学校行事の役職についてことがある（実行委員長など）」は21.1%と同率、「委員会活動で役職についてことがある」が最も低く19.7%である。

表2-3-1 学校での経験と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係（人数：人、比率：%）

学校での経験		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
学級委員になったことがある	人数	168	48	146	329	691
	比率	24.3	7.0	21.1	47.6	100.0
部活でキャプテン、副キャプテンなどの役職についてことがある	人数	212	62	258	472	1,004
	比率	21.1	6.2	25.7	47.0	100.0
生徒会執行部の役職についてことがある（生徒会長、書記など）	人数	77	28	66	144	315
	比率	24.4	8.9	21.0	45.7	100.0
委員会活動で役職についてことがある	人数	305	114	417	716	1,552
	比率	19.7	7.4	26.9	46.1	100.0
学校行事の役職についてことがある（実行委員長など）	人数	156	58	192	335	741
	比率	21.1	7.8	25.9	45.2	100.0

表2-3-2は、学校生活で充実していることと仕事を通じて自己実現ができているかどうかの関係を示したものである。この中で、自己実現ができている比率が高いのは「生徒会活動」で、その比率は29.5%である。次いで「日々の授業」が23.8%、体育祭が23.3%である。自己実現できている比率が低いのは「その他」の12.5%である。

表2-3-2 学校生活で充実していること（していたこと）と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係
(人数：人、比率：%)

学校生活で充実していること（していたこと）		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
日々の授業	人数	244	57	254	472	1027
	比率	23.8	5.6	24.7	46.0	100.0
文化祭	人数	332	98	367	699	1496
	比率	22.6	6.7	25.0	47.6	100.0
体育祭	人数	331	90	363	634	1418
	比率	23.3	6.3	25.6	44.7	100.0
部活動	人数	306	87	368	633	1394
	比率	22.0	6.2	26.4	45.4	100.0
生徒会活動	人数	75	15	47	117	254
	比率	29.5	5.9	18.5	46.1	100.0
友人・恋人関係	人数	309	92	352	686	1439
	比率	21.5	6.4	24.5	47.7	100.0
その他	人数	2	3	4	7	16
	比率	12.5	18.8	25.0	43.8	100.0
なし	人数	4	9	4	11	28
	比率	14.3	32.1	14.3	39.3	100.0

さらに、表2-3-3は、学校生活以外での活動経験と仕事を通じて自己実現ができているかどうかの関係を示したものである。学校生活以外の活動経験のうち、自己実現ができている比率が最も高いのは、「起業・ビジネス」で46.7%である。次いで「アルバイト」で41.9%である。これ以外の活動では、「学外サークル」で22.9%、「インターン・職業体験・職場訪問」で22.3%、「友人・恋人関係」で21.8%である。

表2-3-3 学校生活以外での活動経験と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係

(人数：人、比率：%)

学校生活以外での活動経験		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
アルバイト	人数	179	36	113	99	427
	比率	41.9	8.4	26.4	23.3	100.0
学外サークル	人数	16	6	16	32	70
	比率	22.9	8.6	22.9	45.7	100.0
習い事	人数	208	70	263	538	1079
	比率	19.3	6.5	24.4	49.9	100.0
ボランティア・地域活動	人数	203	85	247	441	976
	比率	20.8	8.7	25.3	45.2	100.0
起業・ビジネス	人数	14	3	4	9	30
	比率	46.7	10.0	13.3	30.0	100.0
インターン・職業体験・職場訪問	人数	151	48	170	307	676
	比率	22.3	7.1	25.1	45.4	100.0
友人・恋人関係	人数	273	85	307	586	1251
	比率	21.8	6.8	24.5%	46.8	100.0
なし	人数	4	9	4	11	28
	比率	14.3	32.1	14.3	39.2	100.0

次に、表2-3-4は、物事への対処方法、将来、友人関係等と仕事を通じて自己実現ができてい
 るかどうかの関係を示したものである。自己実現ができていない比率が最も高いのは、「職場で自
 分を立てた計画は、うまくできる自信がある」で32.0%である。次いで比率が高いのは、「私は
 特別何かしなくても価値があると感じる」(28.8%)、「将来に対してあまり不安を感じない」
 (28.5%)、「地域に応援してくれる人・団体がある」(28.2%)、「学校でやりたいことができ
 ている(いた)」(25.5%)、「私は特に理由がなくても自分に自信が持てることがある」
 (24.5%)の順である。一方、自己実現ができていない比率が低いのは、「新しいことを始めよう
 と決めても、出だしでつまずくとすぐあきらめてしまう」(17.5%)、「友達になりたい人で
 も、それが大変だと思うとすぐに止めてしまう」(17.3%)、「何かを終える前にあきらめてし
 まう」(17.0%)、「重要な目標を決めても、ほとんど成功しない」(16.9%)で、最も低い
 のが「新しい友達を作るのが苦手だ」(16.0%)である。

表2-3-4 物事への対処方法、将来、友人関係等と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係
 (人数：人、比率：%)

物事への対処方法、将来、友人関係等につ いて当てはまること		あなたは仕事(パート、アルバイトを含む)を 通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
生きていく中で起きる問題の多く に対処できるとは思えない	人数	238	109	330	598	1,275
	比率	18.7	8.6	25.9	46.9	100.0
重要な目標を決めても、ほとんど 成功しない	人数	92	60	144	250	546
	比率	16.9	11.0	26.4	45.8	100.0
何かを終える前にあきらめてしま う	人数	109	68	177	287	641
	比率	17.0	10.6	27.6	44.8	100.0
新しいことを始めようと決めて も、出だしでつまずくとすぐあき らめてしまう	人数	142	79	210	382	813
	比率	17.5	9.7	25.8	47.0	100.0
将来に対してあまり不安を感じな い	人数	123	29	91	188	431
	比率	28.5	6.73	21.1	43.6	100.0
学校でやりたいことができている (いた)	人数	216	37	178	416	847
	比率	25.5	4.4	21.0	49.1	100.0
職場で自分が立てた計画は、うま くできる自信がある	人数	98	14	59	135	306
	比率	32.0	4.6	19.3	44.1	100.0
親は自分を認めてくれている	人数	304	80	295	663	1,342
	比率	22.7	6.0	22.0	49.4	100.0

地域に応援してくれる人・団体がある	人数	168	22	129	276	595
	比率	28.2	3.7	21.7	46.4	100.0
私は特別何かしなくても価値があると感じる	人数	109	21	67	181	378
	比率	28.8	5.6	17.7	47.9	100.0
私は今の自分が「理想とする自分」と違っていても許容できる	人数	155	37	151	382	725
	比率	21.4	5.1	20.8	52.7	100.0
私は特に理由がなくても自分に自信が持てることがある	人数	128	20	120	255	523
	比率	24.5	3.8	22.9	48.8	100.0
新しい友達を作るのが苦手だ	人数	131	69	200	419	819
	比率	16.0	8.4	24.4	51.2	100.0
友達になりたい人でも、それが大変だと思うとすぐに止めてしまう	人数	95	53	137	264	549
	比率	17.3	9.7	25.0	48.1	100.0
私はあまり他人の意見に左右されない	人数	126	36	123	278	563
	比率	22.4	6.39	21.9	49.4	100.0
私はいつも自分の短所をあまり気にしない	人数	83	21	90	182	376
	比率	22.1	5.6	23.9	48.4	100.0
他人に否定的な評価をされても、最後には「まあいいか」と思える	人数	227	55	242	505	1,029
	比率	22.1	5.3	23.5	49.1	100.0
私は不安なことがあっても、最後には「なんとかなる」と思える	人数	271	68	292	591	1222
	比率	22.2	5.6	23.9	48.4	100.0

表2-3-5は、夢、やりたいこと、存在価値等と仕事を通じて自己実現ができてきているかどうかの関係を示したものである。夢、やりたいこと、存在価値等の11項目の中で、自己実現ができてきている比率が最も大きいのは、「地域でやりたいことができてきている」で32.1%である。これに次いで高いのは「夢がかなっていない」で31.5%である。比率が30%を超えているのはこの2項目だけである。これ以降では「学校・職場でやりたいことができてきている」（27.3%）、「家族でやりたいことができてきている」（25.8%）、「自分には存在価値があると思う」（25.7%）の順に高い。最も低いのは、「友人や仲間との活動が楽しい」（20.9%）である。

表2-3-5 夢、やりたいこと、存在価値等と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係

(人数：人、比率：%)

あてはまること (夢、やりたいこと、存在価値等)		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
叶えたい夢がある	人数	353	108	374	671	1,506
	比率	23.4	7.2	24.8	44.6	100.0
夢がかなっていない	人数	41	10	24	55	130
	比率	31.5	7.7	18.5	42.3	100.0
今の生活に満足している	人数	233	48	222	455	958
	比率	24.3	5.0	23.2	47.5	100.0
学校・職場でやりたいことができて いる	人数	210	27	169	365	771
	比率	27.3	3.5	21.9	47.3	100.0
家族でやりたいことができて いる	人数	203	31	164	387	785
	比率	25.8	4.0	20.9	49.3	100.0
地域でやりたいことができて いる	人数	70	17	38	93	218
	比率	32.1	7.8	17.4	42.7	100.0
自分には存在価値があると思う	人数	217	37	173	418	845
	比率	25.7	4.4	20.4	49.5	100.0
自分は役に立っていると思う	人数	189	24	127	297	637
	比率	29.7	3.8	19.9	46.6	100.0
友人や仲間との活動が楽しい	人数	389	123	470	878	1,860
	比率	20.9	6.6	25.3	47.2	100.0
悩みがあったら相談できる人が いる	人数	321	80	342	722	1,465
	比率	21.9	5.5	23.3	49.3	100.0
自分はあまり他人の評価を気にしな い	人数	147	43	173	300	663
	比率	22.1	6.5	26.1	45.3	100.0

最後に、表2-3-6は、親の関わり方と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係を示したものである。自己実現の比率が最も高い親の関わり方は「親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった」（24.3%）である。なお、そのほかの項目でも自己実現の比率は22～23%台で、項目間にはあまり差は見られない。

表2-3-6 親の関わり方と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係 （人数：人、比率：%）

親の関わり方		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた	人数	372	114	411	794	1691
	比率	22.0	6.7	24.3	47.0	100.0
親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた	人数	253	82	292	563	1190
	比率	21.3	6.9	24.5	47.3	100.0
勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた	人数	72	30	78	125	305
	比率	23.6	9.8	25.6	41.0	100.0
親は何かする時、常に手伝ってくれた	人数	302	108	325	582	1317
	比率	22.9	8.2	24.7	44.2	100.0
親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった	人数	131	47	131	230	539
	比率	24.3	8.7	24.3	42.7	100.0

3章 社会人の生活意識と活動

1節 社会人の全般的な特徴

第2章の高校生を対象とした結果と同様に、社会人が、日頃、どのような意識を抱き、自身の行動や周囲との関係等をどのように評価しているかを示したものが表3-1-1である。ここでは、日頃の意識や行動に関する12項目のそれぞれについて、「あてはまる」と回答した人の結果を示している。全体でみたとき、これらの項目の中で最も比率の高いのは「友人や仲間との活動が楽しい」（72.2%）であり、70%を超えているのはこの項目だけである。これに次いで比率が高いのは「悩みがあったら相談できる人がいる」（61.6%）で、さらに「叶えたい夢がある」（61.1%）と続いている。反対に比率が低いのは「夢がかなっている」（14.1%）、「地域でやりたいことができている」（15.7%）であり、いずれも10%台にとどまっている。

性別にみると、全体で最も比率の高かった「友人や仲間との活動が楽しい」は男性（75.2%）と女性（69.3%）のいずれにおいても最も高くなっているが、男性の方が5ポイント以上高い。この他に

男性の比率が高いのは「地域でやりたいことができています」（男性17.1%、女性9.3%）、「自分はあまり他人の評価を気にしない」（男性27.4%、女性17.3%）、「自分には存在価値があると思う」（男性42.7%、女性36.0%）、「自分は役に立っていると思う」（男性35.9%、女性30.7%）の4項目である。これら以外は女性の比率の方が高く、「叶えたい夢がある」（男性54.7%、女性68.0%）では女性の方が10ポイント以上高い。このほか、「家族でやりたいことができています」（男性28.2%、女性36.0%）、「悩みがあったら相談できる人がいる」（男性59.0%、女性66.7%）では女性の比率が高い。

表3-1-1 日頃の高校生の意識、夢、やりたいこと、周囲との関係等についての自己評価

(人数：人、比率：%)

		男性	女性	その他	計
叶えたい夢がある	人数	64	51	6	121
	比率	54.7	68.0	100.0	61.1
夢がかなっている	人数	14	11	3	28
	比率	12.0	14.7	50.0	14.1
今の生活に満足している	人数	39	27	3	69
	比率	33.3	36.0	50.0	34.9
学校・職場でやりたいことができています	人数	43	30	3	76
	比率	36.8	40.0	50.0	38.4
家族でやりたいことができています	人数	33	27	3	63
	比率	28.2	36.0	50.0	31.8
地域でやりたいことができています	人数	20	7	4	31
	比率	17.1	9.3	66.7	15.7
自分には存在価値があると思う	人数	50	27	3	80
	比率	42.7	36.0	50.0	40.4
自分は役に立っていると思う	人数	42	23	3	68
	比率	35.9	30.7	50.0	34.3
友人や仲間との活動が楽しい	人数	88	52	3	143
	比率	75.2	69.3	50.0	72.2
悩みがあったら相談できる人がいる	人数	69	50	3	122
	比率	59.0	66.7	50.0	61.6
自分はあまり他人の評価を気にしない	人数	32	13	4	49
	比率	27.4	17.3	66.7	24.8

表3-1-2は、「困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ」についての回答結果である。全体で見ると、回答のあった社会人では、72.2%の人が「困ったことが困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ」と考えている。この比率は、男性では77.8%、女性では69.3%で、男性の方が高くなっている。

表3-1-2 困ったことがあっても、何とか自分でやり遂げようと思う方だ。

(人数：人、比率：%)

		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	91	24	2	117
	比率	77.8	20.5	1.7	100.0
女性	人数	52	22	1	75
	比率	69.3	29.3	1.3%	100.0
その他	人数	1	4	1	6
	比率	16.7	66.6%	16.7%	100.0
全体	人数	144	50	4	198
	比率	72.7	25.3	2.0	100.0

表3-1-3は、「学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ」に対する回答結果を示している。全体では、42.4%の人が「学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ」と考えている。性別にみると、この比率は男性が47.9%、女性が37.3%で、男性の方が10ポイント以上高くなっている。

表3-1-3 学校の授業、職場や地域の会議では、自発的に自分の意見を言う方だ

(人数：人、比率：%)

		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	56	60	1	117
	比率	47.9	51.3	0.9	100.0
女性	人数	28	45	2	75
	比率	37.3	60.0	2.7	100.0
その他	人数	0	4	2	6
	比率	0.0	66.7	33.3	100.0
全体	人数	84	109	5	198
	比率	42.4	55.1	2.5	100.0

表3-1-4は、「この一年間のうちで、やってみてよかったと思うことがある」についての回答結果である。全体では、91.4%の人が一年間のうちで、やってみてよかったと思うことがあると考えている。性別にみても、男性（93.2%）と女性（94.7%）で大きな違いはない。

表3-1-4 この一年間のうちで、やってみてよかったと思うことがある。（人数：人、比率：%）

		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	109	7	1	117
	比率	93.2	5.9	0.9	100.0%
女性	人数	71	4	0	75
	比率	94.7	5.3	0	100.0
その他	人数	1	3	2	6
	比率	16.7	50.0	33.3%	100.0
全体	人数	181	14	3	198
	比率	91.4	7.1	1.5%	100.0

表3-1-5は、「今、新たに取り組んでみたいことがある」についての回答結果である。全体では76.8%の人が新たに組みたいことがあると考えている。性別で見ても、この比率はほぼ同じである（男性78.6%、女性78.7%）。

表3-1-5 今、新たに取り組んでみたいことがある。（人数：人、比率：%）

		はい	いいえ	無記入	計
男性	人数	92	24	1	117
	比率	78.6	20.5	0.9	100.0
女性	人数	59	15	1	75
	比率	78.7	20.0	1.3	100.0
その他	人数	1	3	2	6
	比率	16.7	50.0	33.3	100.0
全体	人数	152	42	4	198
	比率	76.8	21.2	2.0	100.0

表3-1-6は、「自分の夢を話せる相手」として回答のあった自分の夢を話せる相手の状況を示している。全体では、「友達に言える」が69.2%で最も多く、次いで「家族に言える」が64.1%となっている。「知らない人にも言える」は比率は下がるが31.8%である。性別でみると、男性では、「友達に言える」が65.8%で最も高い。女性では、「家族に言える」が76.0%で最も多く、次いで「友達に言える」が73.3%である。話せる相手ごとに男女の違いをみると、「家族に言える」「友達に言える」「知らない人にも言える」は、いずれに女性の比率が高い。中でも「家族に言える」では女性の方が約20ポイント高く、「友達に言える」では7.5ポイント高くなっている。

表3-1-6 自分の夢を話せる相手 (人数：人、比率：%)

自分の夢を話せる相手		男性	女性	その他	計
家族に言える	人数	65	57	5	127
	比率	55.6	76.0	83.3	64.1
友達に言える	人数	77	55	5	137
	比率	65.8	73.3	83.3	69.2
知らない人にも言える	人数	35	25	3	63
	比率	29.9	33.3	50.0	31.8
誰にも言えない	人数	11	5	3	19
	比率	9.4	6.7	50.0	9.6
やりたいことや夢はまだ無い	人数	27	10	3	40
	比率	23.1	13.3	50.0	20.2

2節 自己実現と生きづらさとの実態

本節では、社会人の自己実現と生きづらさの実態を明らかにする。表3-2-1は、仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて自己実現ができてきているかについての結果を示したものである。自己実現ができているとする比率は、全体では39.4%であった。性別にみると、男性は38.4%、女性は42.7%で、若干、女性の比率の方が高い。高校生のそれと比較した場合、男女の比率が逆転している。「いいえ」と回答した比率は男性が20.5%、女性が14.7%と女性の方が低くなっている。男性に比べ、女性の方が仕事を通じての自己実現感は高いと考えられる。

表3-2-1 仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて自己実現ができてきているか
(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
男性	人数	45	24	34	14	117
	比率	38.4	20.5	29.1	12.0	100.0
女性	人数	32	11	26	6	75
	比率	42.7	14.7	34.7	8.0	100.0
その他	人数	1	1	4	0	6
	比率	16.7	16.7	66.6	0	100.0
全体	人数	78	36	64	20	198
	比率	39.4	18.2	32.3	10.1	100.0

表3-2-2は、これまでの失敗経験や挫折の経験の有無を示したものである。これまでに失敗経験や挫折の経験があるのは、全体では92.4%である。性別で見ると、男性が93.1%、女性が94.7%で、性別での違いはほとんどない。

表3-2-2 これまでに失敗や挫折した経験があるか (人数：人、比率：%)

性別		ある	ない	無記入	計
男性	人数	109	8	0	117
	比率	93.1	6.8	0	100.0
女性	人数	71	3	1	75
	比率	94.7	4.0	1.3	100.0
その他	人数	3	1	2	6
	比率	50.0	16.7	33.3	100.0
全体	人数	183	12	3	198
	比率	92.4	6.1	1.5	100.0

表3-2-3は、これまでの失敗経験や挫折した経験が今となっては良い経験だと思うかどうかの結果を示している。失敗経験や挫折した経験が今となっては良い経験と思っている人は、全体では67.2%である。性別でみる、男性は67.5%、女性は70.7%で女性の比率が若干高い。また、「いいえ」と回答した人の比率は、男性が12.0%、女性が4.0%で、女性の比率が低くなっている。

表3-2-3 これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う

(人数：人、比率：%)

性別		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
男性	人数	79	14	20	4	117
	比率	67.5	12.0	17.1	3.4	100.0
女性	人数	53	3	15	4	75
	比率	70.7	4.0	20.0	5.3	100.0
その他	人数	1	2	1	2	6
	比率	16.7	33.3	16.7	33.3	100.0
全体	人数	133	19	36	10	198
	比率	67.2	9.6	18.1	5.1	100.0

表3-2-4は、親の関わり方の違いでみた「これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う」の結果を示している。親の関わり方の5項目では「これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う」の「はい」の比率はいずれも60%を超えており、その中でも最も比率が高いのは、「親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた」で、70.0%である。これに次いで比率が高いのは、「親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた」(67.5%)である。

**表3-2-4 親の関わり方と「これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う」
ことの関係** (人数：人、比率：%)

親の関わり方		これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う				
		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた	人数	84	7	22	7	120
	比率	70.0	5.8	18.3	5.8	100.0
親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた	人数	52	5	16	4	77
	比率	67.5	6.5	20.8	5.2	100.0
勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた	人数	21	5	7	1	34
	比率	61.8	14.7	20.6	2.9	100.0
親は何かする時、常に手伝ってくれた	人数	57	7	20	6	90
	比率	63.3	7.8	23.2	6.7	100.0
親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった	人数	27	5	9	2	43
	比率	62.8	11.6	20.9	4.7	100.0

3節 生きづらさの要因、自己実現を阻む要因

本節では、仕事（アルバイト、パートを含む）を通じて自己実現ができているかどうか、どのような項目が関係しているかについての結果を明らかにする。

表3-3-1は、学校での経験の違いによる自己実現の有無の結果を示している。学校での経験の5項目のうち、自己実現ができていると思う比率が最も高いのは、「生徒会執行部の役職についてことがある（生徒会長、書記など）」であり、その比率は48.0%である。その次に自己実現できているとする比率が高いのは、「学校行事の役職についてことがある（実行委員長など）」（45.4%）、「学級委員になったことがある」（44.8%）、「委員会活動で役職についてことがある」（40.0%）と続く。最も比率が低いのは、「部活でキャプテン、副キャプテンなどの役職についてことがある」で、その比率は35.2%である。

表3-3-1 学校での経験と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係（人数：人、比率：%）

学校での経験		はい	いいえ	どちらとも いえない	計
学級委員になったことがある	人数	47	17	32	105
	比率	44.8	16.2	30.5	100.0
部活でキャプテン、副キャプテンなどの役職についてことがある	人数	37	24	40	105
	比率	35.2	22.9%	38.1	100.0
生徒会執行部の役職についてことがある（生徒会長、書記など）	人数	24	8	18	50
	比率	48.0	16.0	36.0	100.0
委員会活動で役職についてことがある	人数	51	23	39	126
	比率	40.5	18.3	31.0	100.0
学校行事の役職についてことがある（実行委員長など）	人数	39	12	29	86
	比率	45.4	14.0	33.7	100.0

表3-3-2は、自分の夢を話せる相手の違いでみた自己実現の有無の結果を示している。自己実現ができているとする比率が最も高いのは、自分の夢を「知らない人にも言える」で、その比率は46.0%である。これに次いで比率が高いのは「家族に言える」(45.7%)であり、さらに「友達に言える」(42.3%)が続いている。全体の中で自己実現ができていない比率が低いのは、「誰にも言えない」(36.8%)と「やりたいことや夢はまだ無い」(30.0%)である。「知らない人にも言える」と「やりたいことや夢はまだ無い」では16ポイントの開きがある。

表3-3-2 自分の夢を話せる相手の違いでみた「仕事を通じた自己実現の有無」

(人数：人、比率：%)

自分の夢を話せる相手		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
家族に言える	人数	58	18	39	12	127
	比率	45.7	14.2	30.7	9.5	100.0
友達に言える	人数	58	20	42	17	137
	比率	42.3	14.6	30.7	12.4	100.0
知らない人にも言える	人数	29	11	17	6	63
	比率	46.0	17.5	27.0	9.5	100.0
誰にも言えない	人数	7	6	4	2	19
	比率	36.9	31.6	21.1	10.5	100.0
やりたいことや夢はまだ無い	人数	12	10	17	1	40
	比率	30.0	25.0	42.5	2.5	100.0

表3-3-3は、物事への対処方法、将来、友人関係等と仕事を通じた自己実現の関係を示したものである。この中で、自己実現ができていない比率が最も高いのは、「職場で自分が立てた計画は、うまくできる自信がある」で、その比率は67.7%である。60%を超えているのはこの項目だけである。これに続いて比率が高いのは、「私はいつも自分の短所をあまり気にしない」(57.5%)、「私は特別何かしなくても価値があると感じる」(55.8%)、「私は特に理由がなくても自分に自信が持てることがある」(53.2%)、「地域に応援してくれる人・団体がある」(52.7%)である。

一方、全体の中で自己実現ができていない比率が低い項目には、「生きていく中で起きる問題の多くに対処できるとは思えない」(31.0%)、「友達になりたい人でも、それが大変だと思うとすぐに止めてしまう」(30.2%)、「新しい友達を作るのが苦手だ」(29.7%)などがある。最も比率が低いのは、「新しいことを始めようと決めても、出だしでつまずくとすぐあきらめてしまう」であり、その比率は28.2%である。これは、最も比率が高い「職場で自分が立てた計画は、うまくできる自信がある」と40ポイント近い差がある。

表3-3-3 物事への対処方法、将来、友人関係等と「仕事を通じた自己実現の有無」

(人数：人、比率：%)

物事への対処方法、将来、友人関係等について当てはまること		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
生きていく中で起きる問題の多くに対処できるとは思えない	人数	31	27	34	8	100
	比率	31.0	27.0	34.0	8.0	100.0
重要な目標を決めても、ほとんど成功しない	人数	15	14	15	3	47
	比率	31.9	29.8	31.9	6.4	100.0
何かを終える前にあきらめてしまう	人数	19	15	16	5	55
	比率	34.6	27.27	29.1	9.1	100.0
新しいことを始めようと決めても、出だしでつまずくとすぐあきらめてしまう	人数	20	17	24	10	71
	比率	28.2	23.9	33.8	14.1	100.0
将来に対してあまり不安を感じない	人数	15	7	7	1	30
	比率	50.0	23.3	23.3	3.3	100.0
学校でやりたいことができている（いた）	人数	35	10	19	6	70
	比率	50.0	14.3	27.1	8.6	100.0
職場で自分が立てた計画は、うまくできる自信がある	人数	23	5	5	1	34
	比率	67.7	14.7%	14.7	2.9	100.0
親は自分を認めてくれている	人数	50	13	32	10	105
	比率	47.6	12.4	30.5	9.5	100.0
地域に応援してくれる人・団体がある	人数	29	8	16	2	55
	比率	52.7	14.6	29.1	3.6%	100.0
私は特別何かしなくても価値があると感じる	人数	24	6	12	1	43
	比率	55.8	14.0	27.9	2.3	100.0
私は今の自分が「理想とする自分」と違っていても許容できる	人数	32	11	27	6	76
	比率	42.1	14.5	35.5	7.9	100.0
私は特に理由がなくても自分に自信が持てることがある	人数	25	6	13	3	47
	比率	53.2	12.8	27.7	6.4	100.0
新しい友達を作るのが苦手だ	人数	22	24	19	9	74
	比率	29.7	32.4	25.7	12.2	100.0
友達になりたい人でも、それが大変だと思うとすぐに止めてしまう	人数	16	15	20	2	53
	比率	30.2	28.3	37.7	3.8	100.0

私はあまり他人の意見に左右されない	人数	21	10	9	6	46
	比率	45.7	21.7	19.6	13.0	100.0
私はいつも自分の短所をあまり気にしない	人数	23	7	8	2	40
	比率	57.5	17.5	20.0	5.0	100.0
他人に否定的な評価をされても、最後には「まあいいか」と思える	人数	40	13	19	7	79
	比率	50.6	16.5	24.1	8.9	100.0
私は不安なことがあっても、最後には「なんとかなる」と思える	人数	46	11	24	10	91
	比率	50.6	12.1	26.4	11.0	100.0

表3-3-4は、夢、やりたいこと、存在価値等と仕事を通じた自己実現の有無の関係を示している。夢、やりたいこと、存在価値等の11項目の中で、自己実現ができているとする比率が最も高いのは「夢がかなっている」で、その比率は57.1%である。これに次いで比率が高いのは、「自分は役に立っていると思う」（54.4%）、「家族でやりたいことができている」（54.0%）、「今の生活に満足している」（50.7%）などが続いている。これに対して、自己実現ができているとする比率が低いのは、「叶えたい夢がある」（41.3%）、「友人や仲間との活動が楽しい」（41.3%）、「自分はあまり他人の評価を気にしない」（36.7%）である。

表3-3-4 夢、やりたいこと、存在価値等と「仕事を通じた自己実現の有無」の関係

(人数：人、比率：%)

あてはまること（夢、やりたいこと、存在価値等）		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
叶えたい夢がある	人数	50	21	35	15	121
	比率	41.3	17.4	28.9	12.4	100.0
夢がかなっている	人数	16	3	9	0	28
	比率	57.1	10.7	32.1	0.0	100.0
今の生活に満足している	人数	35	6	25	3	69
	比率	50.7	8.7	36.2	4.4	100.0
学校・職場でやりたいことができている	人数	36	7	28	5	76
	比率	47.4	9.2	36.8	6.6	100.0
家族でやりたいことができている	人数	34	7	18	4	63
	比率	54.0	11.1	28.6	6.4	100.0

地域でやりたいことができている	人数	13	2	14	2	31
	比率	41.9	6.5	45.2	6.5	100.0
自分には存在価値があると思う	人数	39	11	22	8	80
	比率	48.8	13.8	27.5	10.0	100.0
自分は役に立っていると思う	人数	37	7	17	7	68
	比率	54.4	10.3	25.0	10.3	100.0
友人や仲間との活動が楽しい	人数	59	23	44	17	143
	比率	41.3	16.1	30.8	11.9	100.0
悩みがあったら相談できる人がいる	人数	53	19	40	10	122
	比率	43.4	15.6	32.8	8.2	100.0
自分はあまり他人の評価を気にしない	人数	18	6	19	6	49
	比率	36.7	12.2	38.8	12.2	100.0

表3-3-5は、親の関わり方と「仕事を通じた自己実現の有無」の関わりを示したものである。親との関わり方の項目の中で、自己実現ができているとする比率が最も高いのは、「親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった」であり、その比率は48.8%である。これに次いで比率が高いのは、「親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた」（46.8%）である。さらに、「勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた」（41.2%）、「親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた」（40.8%）の順に低くなり、最も比率が低いのは「親は何かする時、常に手伝ってくれた」（36.7%）である。

表3-3-5 親の関わり方と「仕事を通じた自己実現の有無」関わり (人数：人、比率：%)

親の関わり方		あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。				
		はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
親は、けがや事故に遭わないように常に気に掛け、細心の注意を払ってくれていた	人数	49	24	36	11	120
	比率	40.8	20.0	30.0	9.2	100.0
親は学校で問題を起こさないように、持ち物を確認したり、宿題を手伝ってくれたり、細心の注意を払ってくれていた	人数	36	15	19	7	77
	比率	46.8	19.5	24.7	9.1	100.0
勉強やスポーツなどあらゆる分野に関して、親の価値観を押し付けられた	人数	14	9	6	5	34
	比率	41.2	26.5	17.6	14.7	100.0
親は何かする時、常に手伝ってくれた	人数	33	18	27	12	90
	比率	36.7	20.0	30.0	13.3	100.0
親は何かする時、あれこれと指示したり、時に先走って、事を進めることが多かった	人数	21	9	9	4	43
	比率	48.8	20.9	20.9	9.3	100.0

ここまでは仕事を通じた自己実現の有無にどのような事柄が関連しているかをみてきた。本節の最後に、さらに自己実現ができていないかによって、過去の失敗や挫折の経験をどのようにとらえているかをみておきたい。表3-3-6は、「仕事を通じた自己実現の有無」によってこれまでの失敗経験や挫折した経験が今となっては良い経験だと思うかどうかの結果を示している。これを見ると、自己実現ができていない人のうち、これまでの失敗や挫折の経験が今となっては良い経験だと思うかに対して「はい」は83.3%、「いいえ」は2.6%で、良い経験だと思う人が圧倒的に多くなっている。これに対して、自己実現ができていないと考えている人では、これまでの失敗や挫折の経験が今となっては良い経験だと思うかに対して「はい」は44.4%、「いいえ」は33.3%であり、その差は10ポイントほどしかない。自己実現ができていない人とそうでない人を比較すると、過去の失敗や挫折を今となっては良い経験ととらえる比率は、自己実現ができる人がそうでない人の2倍近く多いことがわかる。

表3-3-6 「仕事を通じた自己実現の有無」と「これまでの失敗や挫折の経験は、今となっては良い経験だと思う」ことの関係 (人数：人、比率：%)

あなたは仕事（パート、アルバイトを含む）を通じて、自己実現できていると思いますか。		失敗や挫折が、今となっては良い経験だと思いますか				
		はい	いいえ	どちらとも いえない	無記入	計
はい	人数	65	2	9	2	78
	比率	83.3	2.6	11.5	2.6	100.0
いいえ	人数	16	12	5	3	36
	比率	44.4	33.3	13.9	8.3	100.0
どちらとも いえない	人数	42	3	15	4	64
	比率	65.6	4.7	23.4	6.3	100.0

4章 考察 生きづらさの克服を支援するため

本章では、これまでの調査結果をもとに、これからの若年世代の生きづらさを克服するための支援の在り方について考察する。

1節 失敗体験の転化～「生きづらさ」に追い詰められる若者を生み出さない～

本調査研究において対象の若者が抱える「生きづらさ」の要因として、①夢が描けないこと、②他者からの見られ方が気になり常に疲弊していること、③全てに自信が持てないこと、などが大きく影響していると考えられた。これらの認知・感情が生み出される根本的要因としては、それまでの「失敗体験」が影響していると考えられる。彼らの中で「失敗」＝「負の評価」や「批判・攻撃される要因」という認識が固着化しており、その後、人生における良い経験に転化することは無いと認識されているとすれば①～③の認知・感情が容易に変容することなく、固着していくことになるであろう。そこで「生きづらさ」を克服していく上で、失敗や挫折というある一時点で負の体験をいかに意味あるものと捉え直せるか、あるいは捉え直せたかということが重要な要素となると考えられた。

そのため今回の調査における質問「失敗や挫折が、今となっては良い経験だと思いますか」の結果に注目し、考察を図りたい。前述の問いに「はい」と回答した高校生は57.3%であったのに対し（表2-2-3）、社会人では67.2%と約10ポイント向上する（表3-2-3）。この数字を高いと見るか低いと見るかの議論は、比較対象にもよるため横に置くが、社会体験を通して過去の失敗や挫折に意味を感じられるようになるということは、現実社会の中で、失敗を恐れるのではなく、それが一歩前に進むための推進力になり得ており、自己実現のプロセスにおいて極めて重要な力となっていると考える。社会で自立している人々の多くは、当初、失敗を恐れ、そうなることに不安を感じつつも、前に進むからこそ、失敗せざるを得ない現実の中で「失敗から気付かされ、学べること」、それこそが成長であること等、失敗の捉え方を単なる負のものではなく、プラスに転化し得るものであるという認識を少なからず持てるようになっていくものと考えられる。また、失敗を通して等身大の自分を知り、ある面、無謀な失敗は避けられるようになる。このように生きていく上で避けて通れない「失敗・挫折体験」をどのように受け止め、意味あるものと転化する（できる）思考を育めるかが、生きづらさの解消、ひいては自己実現のための重要なカギになるものとする。

失敗時は誰でも負の思考に埋没しがちである。そこで自己否定を強め、失敗本来の意味を見失ってしまいがちなのである。そのような時、多くの人の助言、体験を聞くことで、様々な気付きを得、失敗そのものの捉え方が変わっていき、そこに意味を見出せることも少なくない。また、

自らの思いを吐き出すことでその傷を癒すことにもなる。そのための他者の存在が重要であり、不可欠なのである。その意味で家族、友人との繋がり、学校・地域社会での繋がり、の意義はますます重要となって来るであろう。近年は繋がりといってもSNS等のやり取りに見られる、ある種、形式的・表面的な繋がりが増え、むしろ不安を生み出す要因になっているのではないかとさえ思えるが、ここで言う繋がりとは、本音をぶつけ合えるリアルな関係性を指し、それを求めるのである。また、そうした機会、あるいはそういった場の創造が求められる。

2節 自己実現できていると感じている人の特徴から見えるもの

高校生調査の結果から自己実現できていると感じている人の核になる力として「自己肯定感・自己効力感」と「繋がる力」の高さが挙げられる。これらの力が育まれる背景要因として、親子関係、学校生活、地域・社会生活がどうあるかを考察する。

親子関係においては、親の期待や願望、一方的な価値観の押し付けではなく、本人の受け止め方や思いを汲み、寄り添い支える関係性が望ましい。そのために日頃からコミュニケーションを取ることを心掛け、話し合える場づくりが求められる。SNSなどによる情報過多、情報氾濫の中、リアルな人間関係が希薄になり、安心感を持ちづらい現代の高校生にとって、「学校に通う」という行為自体、容易で当たり前のことではなく、自らを追い込み、かなり頑張っている行為なのである。そのことに対する慰労や評価が家族内でなされる必要性が求められる時代なのである。

学校生活においては、生徒会活動、各種行事、部活動など人の輪の中でそれをまとめ、引っぱり張るなどの体験の有無が影響していると考えられる。これらの体験を積める生徒は、その時点で自己肯定感、自己効力感が高いと考えられるが、より多くの生徒にそのような体験ができるよう創意工夫を求めたい。大きな達成感を得られることは、自己効力感を高める上で重要な要素となるが、より身近な所で「自分が必要とされている」という体験を積み重ねることで自己肯定感を伸ばさせ、その先の体験へと発展的に繋げていくことが求められる。これらの体験を積み上げることが結果として自己効力感を高めることになる。そして、これらの体験を諦め、投げ出すことなく継続するために「失敗・挫折」に対する捉え方、意味付けをプラスに転化できる力が求められるのである。

また、学校生活における集団活動は、「繋がる力」を育む重要な場となっている。繋がる力の重要な要素としてコミュニケーション力が挙げられるが、ここで言うコミュニケーション力とは、単なる言葉によるものだけではなく、意欲・前向きさ・共感力・協調性など思いや姿勢を伝える力等も含むものである。これらをさまざまな活動を通し、試行錯誤の中で身に付けることにより、仲間の中で、仲間と共に高い夢、目標を叶える体験へと繋げていくことがで

きるのである。人と繋がり、その関係性の中で、自らの能力が引き出される。この体験こそが「自己実現」を成す上で重要なのだと考える。

地域・社会生活においては、少子化、過疎化などによる地域の繋がり希薄化により異世代との繋がり、体験の機会、伝統文化への理解等、地元愛を育む機会が喪失している。しかしながら、現状の課題に対する様々な視野を広げるといった視点からも地域活動に参加する意義は大きい。これらの活動は、異世代と繋がり、広い視野での問題意識を育むという意味でも重要な役割を果たす。これらの衰退や消失を今後どのような形で補っていけるのか、改めて考え直さなければならない時期に入っているのと考えられる。

社会に出て（就職して）挫折し、ひきこもるなど不適應状態になった者たちから、「学校ではプロセスを評価してくれたが、社会は結果重視で、プロセスを評価してくれない。そのギャップに潰された。」と嘆く声を多く聞く。確かにそのような現実が存在しているのは事実だが、本来、学校教育と社会の関係性は「プロセス重視」、「結果重視」といった別々の価値観により分離・分裂したものではなく、学校教育のプロセスを重視する価値観の中で、失敗・挫折といった「結果」を乗り越え、継続する力（失敗・挫折をプラスに転化できる力）を育て、結果重視にならざるを得ない社会への橋渡しをする機能を果たすことが求められるのであろう。

おおらかで緩やかだったかつての時代には、このギャップを埋めるさまざまな機関、組織が機能していたが、それが叶わないのが現状である。故に、改めて家庭、学校、地域社会といった生活の核となる要素に関し、現状の課題に則して、見つめ直し、若者たちが生きやすく、自己実現ができる社会づくりを目指す必要があるのではないだろうか。（水野淳一郎）

本研究にご協力いただきました県・市の関係部局及び青年団体、商工団体、医療機関、教育機関、当事者団体及び回答者の皆様に深謝申し上げます。

秋田県青少年・障害者問題調査研究所（社会福祉法人 秋田福祉協会内）

第二委員会青少年部会

委員長	原	義彦（東北学院大学教授）
委員	水野	淳一郎（長信田の森心療クリニック副院長）
委員	佐々木	英雄（元日本青年団協議会 事務局長）
委員	奥	ちひろ（特定非営利活動法人秋田県南NPOセンター 秋田県南部市民活動サポートセンター次長）
委員	須田	紘彬（株式会社なんで・なんで代表取締役）
所長	瀬田川	榮一（社会福祉法人秋田福祉協会 理事長）
事務局員	市川	信也（社会福祉法人秋田福祉協会 障害者支援施設小又の里施設長）
	成田	雄太（社会福祉法人秋田福祉協会 障害者支援施設小又の里）
	山口	香織（社会福祉法人秋田福祉協会 特別養護老人ホーム共生の里）
	田仲	康二（社会福祉法人秋田福祉協会 グループホームほっと係長）

〒010-0132

秋田市上新城小又字落合85番地

TEL : 018-870-2361

FAX : 018-870-2372

E-Mail : Omatanosato@omatanosato.jp

<令和6年度 秋田青少年・障害者問題調査研究所 寄付者一覧>

林秋会（2口）

山岡工業株式会社（2口）

株式会社新樹 大住調剤薬局

株式会社ライフデザイン建築研究所

株式会社布谷電機

株式会社シブヤ建設工業

タプロス株式会社

株式会社黒澤塗装工業

有限会社玉尾造園土木

株式会社三戸印刷所

株式会社カネヒコ

株式会社アキタネット

加藤建設株式会社